



巻頭言

エネルギーの賢い利用に 貢献したい

専務取締役 林 幹 朗

国際エネルギー機関(IEA)の2001年版 World Energy Outlookによれば、1997年から2020年にかけての電力消費量増加は先進国で年間1.6%、途上国で4.6%と予測されています。

長期的なエネルギー確保については、先進国を中心に、経済発展と環境保全との調和をベースに進めることに同意し、気候変動枠組条約第7回締約国会議で温室効果ガスを削減するための国際的な運用ルールが合意されました。

このような情勢の中で我々は、エネルギーの生産・流通・利用の効率を上げるとともに、温室効果ガスの排出の少ない電力を賢く使うことに努力する必要があるのではないのでしょうか。

幸い、日本には停電も少なく、安定した電力の供給を続けることができるインフラストラクチャが完成していますが、昨今、地域の特性やエネルギー利用の特性に応じた新しいエネルギー供給システムや、新しいエネルギー利用のシステムが加わってきています。これらをいかに組み合わせるかが重要になってきています。

一方、高度情報化の進展に伴って、高い品質レベルの電力エネルギーを必要とする利用形態が増えるなど、電力の利用側のニーズが多様化してきています。具体的には短時間の停電や雷などによる瞬時電圧低下(瞬低)ですら、社会的影響や経済的損失につながるケースがあります。加えて、風力発電等に見られるような不安定な電源や簡易な制御システムの小規模電源が増える兆しがあり、電力供給網に与える品質面での影響が問題になっています。

当社は電力流通分野の機器システムを供給するメーカーとして永年に亘り、電力事業者殿および電力消費者殿よりご愛顧をいただいております。とりわけ、電力の品質を支えるメーカーとしてコンデンサやリアクトル、ならびにパワーエレクトロニクス技術を組み合わせた製品・システムを通して電力品質の向上に寄与させていただいております。この間、豊富な運用経験と優れた運用技術を有する多くのお客様と協力させていただき、新しい技術を開発・実用化できたことに深く感謝しているところであります。

今、電力消費者のニーズが多様化し、消費者に近いところの流通システムに変化の兆しが見えているので、永年に亘り培ってきた当社の技術を活かして、より効率的で、消費者のニーズに合致したエネルギーの賢い使い方を促進する道に貢献していきたいと考えています。

具体的には、経済性・環境性・安定性・信頼性の面で電力の消費サイドを中心に、電力消費側、電力系統側のニーズに対応したソフトウェアとハードウェアを提案する活動に注力しています。

このような観点から今回の技報では、CO₂排出量の少ないエネルギーの有効利用を促進するピークシフトシステム技術、低コストの瞬低対策技術、機械部品等の摩擦・磨耗特性を向上し省資源省エネルギーに貢献する先進的コーティング技術、食品原材料について品質を維持しながら殺菌を行うソフトエレクトロン技術を紹介します。

お客様のニーズ、社会のニーズにいかに対応できるかが我々の使命であると考えておりますので、読者の皆様から是非、忌憚のないご意見・ご批判を頂戴したいと考えています。

今後とも、お客様のご指導をいただきながら、人と技術の未来を開く企業として社会に貢献して参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。